



## サメに天敵はいるの

### 天敵は、自然のバランスを支えている

自然の中では、たいていの動物に天敵がいます。たとえば、毒ヘビのハブを食べるマングースや、野ネズミを食べるキツネ、シカを食べるオオカミなどは、毒ヘビ、野ネズミ、シカなどのそれぞれにとって、天敵といえます。天敵は、自然の中で、いろいろな植物や動物が、おたがいに生き続けるために、動物の数を調節する、大切な役目をしています。

日本では、あちこちでシカがふえすぎて、困っているニュースを聞きます。山の木や草が食いあらされ、木を植えても、食われてかれてしまい、土砂くずれの原因にもなっているのです。これは、植物シカオオカミという、食うもの、食われるものの、つながり（食物連鎖）で、オオカミが、絶めつしたためでもあります。

### サメの天敵はサメ

サメは、海の中の食うもの、食われるものの中でのつながりの中では、いちばん上にいます。オオカミと同じように、天敵はいないといえます。

サメは、種類によって、体の大きさもさまざまですし、食べる物もちがっていますが、どれも肉食です。オキアミなどのプランクトンをよく食べるジンベエザメ、ウバザメなどもあります。でも、広い海を泳ぐ大型のサメは、ほかの動物をえさにしています。たとえば、ホホジロザメなどは、魚、アザラシやオットセイ、クジラ、イルカなど、何でも、食べてしまいます。

同じ種類のサメどうしても、体の大きいほうが、体の小さいサメを食べてしまったり、自分より小型の種類のサメをえさとして食べてしまうのも、めずらしいことではありません。ですから、サメの天敵は、サメといえそうです。（監修・安部 義孝）

